

「資料の引用の仕方」

日本高校生パーラメンタリーディベート連盟 理事 小林良裕

2020年5月6日版

◆ 【11回の構成】 各回 15分～30分程度

1) ディベート指導の背景知識[1]

- ・即興型と準備型
- ・日本におけるディベート指導の小史
- ・中高大の活動の現状

2) ディベート指導の背景知識[2]

- ・即興と 準備型の違い：議論の扱いに関して

3) ディベート指導の類型

- ・日本の大学の部活動での指導
- ・学校のカリキュラム内での指導の3類型

4) 具体的に教える内容 ① 議論の立て方

5) 具体的に教える内容 ② 質問の仕方

- ・fact / opinion を見分ける / causation
- ・POI というものについて

6) 具体的に教える内容 ③ 反論の仕方

7) 資料の引用の仕方

8) グループでの活動、授業内の継続的な試合

- ・立論・質問・要約・反論の1人1役
- ・授業内の継続的な試合の実施
- ・聞き方の指導 & 勝敗の決め方

9) ディベートと他の活動を組み合わせる

- ・Reading 教材のまとめとして
- ・Writing 活動のまとめとして

10) 「4技能検定」&入試の指導と組み合わせる

11) 部活動での指導

- ・事例報告
- ・大会の種類

◆ ——動画内で引用・言及した動画 / website 一覧

以下は、小林が書いたものです (Book3 だけ今現在、PDF 全文公開をしていません)

◇ Book 1 「初めての英語ディベート」

- Lesson 8 「証拠の使い方」
- Lesson 9 「リサーチの仕方」

◇ Book 3 「英語ディベート高校授業用テキスト(教員用)」

- Lesson 6 「証拠の使い方」



Lesson 8.

証拠の使い方



Contents:

Section 1. スピーチ例の分析

Section 2. 証拠の種類

Section 3. 引用の仕方

Section 4. 証拠を疑う

Section 5. Cross-examination

SECTION 1. スピーチ例の分析

議論の最も基本的な構造として、「Opinion (Assertion / Claim) + Reasoning + Evidence」の3つの要素を紹介しました。本レッスンでは、その内の証拠 (Evidence)の用い方についてより詳しく学びます。まず、以下のスピーチ例を読んでみて下さい。主張を根拠づけるための証拠（誰かの発言、具体例、統計資料など）が幾つかあります。該当箇所をマークして下さい。

■ スピーチ例: "Boxing should be banned. (ボクシングは禁止されるべきだ)"

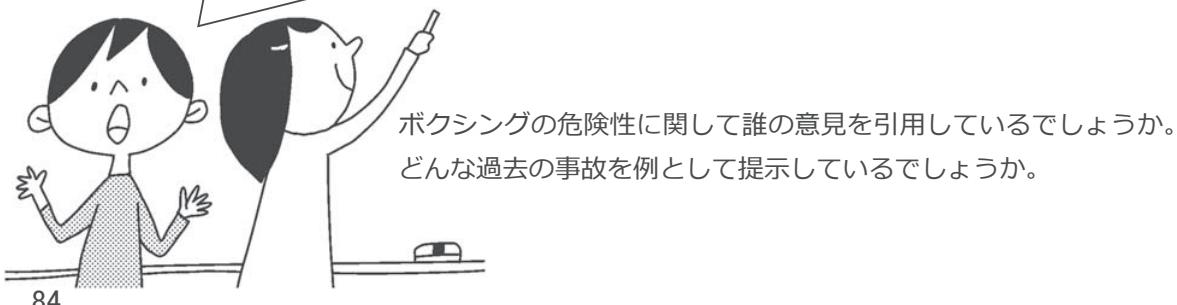
【CD Track # 19】

Good morning everyone. Today, I would like to argue that boxing should be banned. I will give you one reason. That is the risk of physical injuries. I will explain to you that boxing should be banned because it is highly dangerous, and it causes fighters to have brain damage.

First, let me explain how boxing is dangerous. In a boxing match, you will have head injuries again and again. Fighters intentionally try to hit their opponents' heads so that they will lose consciousness. Let me quote what Dr. Bill O'Neill, who is a spokesman of the British Medical Association, said in an interview with BBC in 2001: "It is the only sport where the intention is to inflict serious injury on your opponent, and we feel that we must have a total ban on boxing".

This brain damage is accumulative. The damage adds up and eventually explodes someday. I will give you two examples. In 1995, Gerald McClellan, who was the world Middleweight champion was beaten into coma at the age of 27. Thanks to emergency surgery, he survived but he became blind, deaf, and partially paralyzed. In another case, according to Mainichi Newspaper, November 15th 2001, one university student in Fukuoka suffered brain injury and died while he was practicing boxing.

I believe that one of the most important roles of our government is to prevent people from suffering unnecessary harms. In this respect, boxing should be banned. For this reason, I beg to propose. Thank you. (258 words)



このスピーチ例では、イギリス医学協会のオニール博士が BBC 放送へのインタビューで答えた発言が直接引用されています。引用符(quotation mark、つまりは このマーク、" " の事です)で囲まれている箇所が発言の引用で、スピーチで読み上げる場合は、" Quote, (誰かの言葉), unquote " という語句を用いて引用箇所がどこから始まり、どこで終わるのか示します(この記号「 “ 」「 ” 」の読みが「quote」「unquote」ということです。日本語の文章を読み上げる時の「引用開始」「引用終了」と対応します)。また、具体例としては、ボクシングの事故として有名な 1995 年のマクレランさんの事例と、2001 年 11 月 15 日の毎日新聞で報告された、福岡の大学生の死亡事故が挙げられていました。

いかにボクシングが危険なスポーツであるか、対戦相手に一時的な脳機能障害を起こすために意図的に頭部への打撃を狙うことがあり、何試合も経て頭部に蓄積されるダメージがやがて致命傷となるという論証(Reasoning)だけでなく、この様に専門家の意見や具体的な事例があれば、議論がより説得力のある物になります。以下では、この様に議論の質を高める証拠の用い方を学びます。

SECTION 2. 証拠の種類

一般に、証拠(Evidence)として使える物には以下の 5 種類があります。それぞれ簡単に解説を加えます。

○ 証拠の種類

- (1) その論題に関して専門的な知識を持った人・当事者の意見
- (2) 統計資料・調査結果
- (3) 自分が調べた事例・事実
- (4) 常識的に知られている事例や事実
- (5) 常識的に想像できること

(1) その論題に関して専門的な知識を持った人・当事者の意見

証拠の種類として、まずは自分の主張に沿った専門家の意見が挙げられます。自分が立証したい意見と同じ意見を、ある専門家も持っていると示し、決して自分の意見が単なる素人の思い付きではないと聴衆に印象付けます。

専門家としては、大学教授など研究機関に属する研究者が一般的には認められますが、場合に

よっては、ある分野に関しての当事者の意見を引用してもよいでしょう。例えば医療に関しては、医師や看護師、実際の患者さん、そして製薬会社などの意見を用いることが考えられます。

この専門家の意見を用いるときの注意は、その引用された者は本当にその分野において権威があるのか、という点以外にも「そもそもその人が、どうしてそんな意見を持っているのか」という点を確認する必要があるということです。ある研究者の意見に対して、反対の意見を持つ研究者もいるかもしれません。

例えば、裁判員制度の導入の是非については、賛成する研究者、裁判官・検察官・弁護士もいれば、反対する者も同様にいます。単に「偉い人もこう言っている」という証拠だけではなく、どうしてその専門家がそんな結論に至ったのか、専門家がその意見にどんな論証を出しているのかも確認してください。専門家の意見は鵜呑みにするものではなく、ディベートにおいてはむしろ疑ってみる対象と捉えてみてください。

(2) 統計資料・調査結果

次に挙げる証拠の種類としては、政府の白書、新聞記事、そして研究論文内で示された数値や調査結果があります。例えば、消費税率を 1 パーセントあげればどれだけ税収が増えると試算されているか、死刑制度を廃止した後フィリピンでは犯罪発生数がどれだけ増加したか、という数値データがこの統計資料になります。

数値以外にも、日本の中学生は学校完全週 5 日制が導入された後に、どのように土曜日を過ごしているのかというアンケート結果や、OECD の学力調査の国別ランキングといった調査資料も証拠として使われています。

これら統計資料・調査結果を証拠として用いる際には、まずその数値・調査結果がどのような調査方法を用いて得られたものなのか確認してください。特にアンケートにおいては、誰を対象に、どれだけの数の人に対して質問した物なのか確かめてください。もう一つ注意点を加えれば、これら数値・調査結果自体は単なる事実であり、どのような意味を持つのか様々な解釈が可能である点です。例えば仮に、日本の動物園で病死する動物は年間で総頭数の 8 パーセントいるとして（適当に想像した数値です）、その数値が果たして動物園での動物の扱いが残虐なものだと示しているのか、それとも良好な物だと示しているのか、これだけでは双方の解釈が可能です。数値・調査結果を出す際には、その事実をいかに捉えるか説明を加えて下さい。

(3) 自分が調べた事例・事実

様々な調査報告や情報を調べ、総合した上で浮かび上がる事実も証拠として用いることができます。例えば死刑制度に関して、先進国内で現在もその制度を備えている国はいくつあるか

調べてみたとします。その結果、日本とアメリカの何州かを除いて、全ての先進国では死刑制度は廃止されているという事実に至ったとします（実際のところ OECD 加盟国で死刑制度があるのはその両国だけです）。この様に、幾つかの資料を分析・総合した上で見えてくる新しい事実を証拠として用いることもできます。

この様な証拠を用いる場合は、どのような資料を調べた上で結論付けた事なのかも説明し、他の人にとっても追検証が可能になるようにしてください。他に、独自のアンケートや試算などを行った場合には、調査方法や試算で用いた計算方法などを示してください。

(4) 常識的に知られている事例や事実

例えば、日本人野球選手の能力は、大リーグでも十分通用する域に達しているという意見の証拠を示すとします。その場合は例えば、松坂、松井、そしてイチロー等の活躍の話をするとと思います。イチロー等が活躍していることは、新聞記事やテレビなどで連日報道されることもあり、ある意味常識であるとも言えます。この様に、聴衆にとっても十分に受け入れられている事実・事例は、わざわざその引用元を示す必要なく、証拠として提示して良いと思います。

例えば、前出のボクシング禁止のスピーチでは、マクレランさんの事例が広く知れ渡った事実として、引用元を示すことなく述べられています（もし常識的に認められている事かどうか不安があれば、その事例が言及されている資料を探して、引用の形で用いてください）。

(5) 常識的に想像できる内容

最後に挙げる証拠は、常識的に想像できる内容です。例えば、バレンタインの日にチョコが全くもらえなかつたら、10代の男の子の繊細な心がどう傷つくか、小話(anecdote)をする事がこれにあたります。これは、正確には描写(illustration)と呼ぶのが相応しいのですが、聴衆に納得してもらえる限りは、有効な証拠として用いることも出来るでしょう。

このような証拠は、例えば体罰を日本の校教育で用いることを許すか否かという論題の様に、これまで実行されておらず、その結果現実に起きた事例が存在しない政策の是非や、テレビゲームが子供に有害か否かといった、身近な話題について論じる時に多用するかと思います。証拠といふと偉い人の言葉か、学術論文の引用をすぐ思い浮かべがちですが、その分野の専門家ではなく、一般の聴衆を相手に話をする時には、聞き手にとって容易に想像できる小話を 1つ出したほうがより説得力がある事もあります。



SECTION 3. 引用の仕方

上で確認した証拠の種類のうち、「(1) 専門家の意見」と「(2) 調査結果・統計資料」を使う場合を、一般的に「資料を引用する」と言います。引用をする際には、それぞれスピーチ内で以下の情報を含めて下さい：

1. 引用元の示し方

(1) 専門家の意見

- a. その人の氏名
- b. 肩書き (例 victims of medical mistreatment; university professor etc.)

[例] According to Dr. Dekisugi, who is a law professor of Touto Univ., ~.
(東都大学の法律学の教授、出来杉博士に拠れば~)

(2) 調査結果・統計資料

- a. 出典 (例 According to Japan's ODA White Paper, ~.)
- b. 年度 (, which was published in 2006, ~.)

[例] According to Japan's ODA White Paper, which was published in 2006, ~.
(2006年に出版された、日本のODA白書によれば~)

(3) 新聞・ニュース記事の場合

- a. 新聞社・通信社の名前
- b. 日付

[例] According to the Daily Yomiuri, April 1st 2006, ~.
(2006年4月1日のデイリーヨミウリに拠れば~)

2. 引用内容の示し方

どう資料をスピーチ内で示すかに応じて、以下の通り引用には直接引用と、間接引用の2通りの方法があります。どちらの引用をする場合も、元の資料の意味を曲げて伝えることにならないように注意して下さい。

(1) 直接引用 (Direct Quotation)

- ・ 資料の内容をそのままコピーして読み上げる方法
- ・ 資料の必要な部分を、一語一句コピーして下さい。コピーした文を読み始め
る際には、“Quote”と宣言し、読み終えた際には“Unquote”と言ってください。

(2) 間接引用 (Indirect Quotation)

- ・ 資料の内容を、言い換え・要約して伝える方法
- ・ 資料の内容を言い換え、あるいは要約して伝えます。
- ・ “Quote” と “Unquote”は言う必要はありません。

Task 1. 引用証拠を含んだ議論作り

これまでに学んだ内容を踏まえて、証拠の個所に引用を含んだスピーチを作つてみましょう。新聞あるいはニュース雑誌（日本語なら、エラ、日系ビジネス、またはニュース・ウイークあたりが適当だと思います）を用意して、その中から記事を 1 つ選び、以下の要領でそれを証拠に使つたスピーチを作つてみます。

【手順】

- ① 4 人程度のグループに分かれます（個人で行つても構いません）。新聞かニュース雑誌をグループで用意して下さい。日本語のものでも英語のものでも構いません。
- ② 用意した資料を、手分けして目を通して下さい。何らかの議論に使えそうな情報が見つかれば、候補としてグループの他の人に見せて下さい。
- ③ 選んだ資料から、実際にどんな Opinion(Claim) と Reasoning が作れるか考えて下さい。グループで考えがまとまつたら、右ページのワークシートに記入して、スピーチ原稿を作つて下さい。
- ④ ワークシートの[Evidence]の個所では、“According to ~”の後に資料名を入れた場合は、(1)の空欄に出版年・日付を記入してください。人名を入れた場合は、(2)の空欄に、その人の肩書を書いて下さい。片方だけ記入すれば十分です。
- ⑤ スピーチが完成したら、各グループ代表の人が前に出て発表会です。時間の余裕があれば、以前のレッスンで使つたスピーチの評価用紙を用意して、記入しながら聞いて下さい。その場合は、引用された資料が何であったか、General Comment の欄にノートを取つて下さい。またその証拠について、次節の「8.5 証拠を疑う」を参考に、引用のルールを守つていたか、そして議論の説得力を高める上でどれだけ有効な物だったか、評価してみて下さい。

Argumentative Speech with Quotation**■ Introduction**

- Good [morning / afternoon / evening] everyone.
- I believe that

(1) Signposting

I will give you one argument. It is

■ Body

(2) Opinion (Claim)

[I will explain to you / My claim is] that

(3) Reasoning

My reasoning is as follows.

(4) Evidence

• I will give you one piece of evidence.

• According to [人名・資料名],

$$\left\{ \begin{array}{l} (1) \text{ which was published [日付 (in / on)} \\ (2) \text{ who is [肩書き} \end{array} \right. , ,$$

(quote)

(unquote).

(5) Significance / Relevance

This argument is [important / relevant] because

■ Conclusion

• For this reason, I beg to propose. Thank you.

SECTION 4. 証拠を疑う

最後に、証拠を評価する観点についてです。証拠をたくさん加えたからといって、必ずしもその議論がより説得力のあるものになるとは限りません。その証拠がどれだけ議論を強めているか、以下の観点で判断してください：

○ 証拠を評価する観点

- (1) 証明したい事と証拠に、関連性があるのか
- (2) 引用であれば、出典を示しているか
- (3) その証拠の出典が古すぎないか
- (4) 情報源が信頼できるものか
- (5) ある人の意見が引用された場合、その人が本当にその分野の専門家なのか
- (6) ある人の発言の一部だけを直接引用して、本来の意見を歪めていないか
- (7) 根拠が不明な専門家の意見を、単に羅列していないか
- (8) 自分で調べた事例・事実である場合、それは再検証可能なものか、調査方法・算出方法に間違いがないか

幾つかの観点について補足説明します。まず「(1)証明したい事と証拠の関連性」ですが、例えば「学校週5日制は、子どもが豊かな心を育む上で有益なボランティア活動への参加の機会を与えるので、維持されるべきだ」という議論で出された証拠が、「ボランティア活動を経験したことがあると答えた小学生は、06年に行われた〇〇市教育委員会のアンケートで全体の70パーセントだった」という場合です。70パーセントであったとして、それがどうしたのか説明が必要ります。普通に考えれば、それだけでは関連性が無いとすぐ分かる証拠でも、一生懸命に調べて見つけた情報をどうしても使いたくて、無理に用いられている場合が多くあります。

次に、既に言及した「(7)専門家の意見の单なる羅列」に関してです。日本語ディベートの大会でしばしば見られるのですが、証拠として自分たちの意見を肯定する専門家の意見を単に羅列するだけで、どうして那人達がそう結論づけたのか何も補足説明がされない事があります。専門家の言うことが、何でも正しい訳ではありません。

専門家の発言の上手な引用方法として、意見の論証(reasoning)の部分を代弁してもらう、という使い方があります。この様に用いれば、「あなたの思い込みではありませんか」と退けられかねない複雑な論証を、より説得力のある物に変えることが出来ます。

最後に「(8)自分で調べた事例・事実」についてです。例えば仮に、「学校週5日制を廃止して土曜日も授業を行うと、自分たちの試算では年間10兆円の予算がかかる」と主張されたとします(これは、数年前の英語ディベートの全国大会で、とある高校が実際に試合で提示した数値です)。これは極端な例ですが、自分たちで調べて用意したという証拠・数値を提示された場合、その調査・算出方法を確認してみて下さい。

SECTION 5. CROSS EXAMINATION

後のレッスンでも触れますか、英語ディベートには大まかに、政治家として議会でスピーチをする練習として始まったイギリス議会式のスタイルと、アメリカの弁護士が裁判で議論を戦わせる練習として始まったスタイルの2つがあります。

実際の裁判では、推論だけで事実の認定が行われてしまっては大変です。また、話し方の上手い下手で有罪か無罪か決まって困ります。何より提出された証拠の吟味と、そのための証人の尋問が重要になってきます。それで、裁判の練習としてディベートを行う場合では、証拠が特に大切になります。議論には、必ず証拠があることが期待されます。

裁判の練習として広まったディベートのスタイルでは、この証拠を確認するために、反対尋問(cross-examination)という特別の時間が設けられています。立論スピーチという、自分たちの立場を支持する議論を提示するスピーチが終わった後で、対戦相手のチームの代表1人から質問を数分間受け続けることになります(誰が質問できるかは大会ごとにルールで決まっています)。既に紹介した Point of Information とは異なり、質問を断ることは出来ません。全ての質問に答える義務があります。

例えば、Lesson 4 「議論の作り方」で例示した、「高校での制服の廃止」に関する肯定側の議論を見てみましょう。あのスピーチを、裁判の練習としてのディベートの試合で行った場合、以下で示した箇所に対して、証拠の有無を尋ねる質問が反対尋問で来ると予想できます。

○ Cross Examinationをする上で注意

- (1) 一定期間内は無制限に質問が出来る。
- (2) 相手の議論について、証拠の有無とその質を確認するのが目的。反論はしない。
- (3) 相手が答えやすいように、Yes/No Question を主に用いる(Why や How で質問をすると、相手の返答に時間がかかり、また好きに答えられてしまうので。Why や How で始まる質問が出来ないわけではありません)。

「高校で制服を廃止するべきだ」の肯定側議論に対する質問の例

【CD Track # 20】

Let me explain to you why this is the case. First, let me ask you how we use school uniforms. We wear the same jacket, pants, or skirt every day.

【質問 1】 Do you have the evidence to prove that we use only one set of school uniform? (私たちが一揃いの制服しか使わないという証拠はありますか?)

Only at the arrival of a new season do students usually change their uniforms.

【質問 2】 Do you have the evidence to prove that students change their uniforms only at the arrival of a new season? (生徒達は、季節の変わり目でしか制服を交換しないと証明する証拠はありますか?)

They are not washed or cleaned frequently. In short, they are quite dirty.

【質問 3】 Do you have the evidence to prove that school uniforms are not washed or cleaned frequently? (制服は頻繁に洗濯されたりクリーニングされないと証明する証拠はありますか?)

【質問 4】 Do you have any data to prove that school uniforms are actually dirty? (制服が実際に汚いと証明するデータはありますか?)

Please remember the smell of your friend's uniform in summer. It was soaked with sweat. You can easily understand how it is dirty.

【質問 5】 This is just your personal experience. Do you have the evidence to prove that the school uniform of not just your friend but most of the students are dirty? (これはあなたの個人的な経験です。あなたの友達だけでなく、大抵の生徒の制服は汚いと証明する証拠はありますか?)

Then, please imagine the situation when we abolish school uniforms. What will happen is that students wear different clothes every day. When we were in elementary school, where there was no uniform, we wore different clothes every day. This is a much better for children's health.

【質問 6】This is just your imagination. Do you have any evidence to prove that without school uniforms, students put on clean clothes every day? (これはあなたの想像に過ぎません。制服がなければ生徒は毎日きれいな服を着るという証拠はありますか)

Why is this issue so important? Of course, children are weak and need to be protected from potential harms such as diseases.

【質問 7】Do you have evidence to prove that dirty school uniforms actually cause illness among students? (汚い制服が、実際に生徒の間に病気を引き起こしたと証明する証拠はありますか)

Our School has the responsibility to make sure that children will not get sick because of bad health conditions.

【質問 8】Do you have any evidence to prove that schools have such responsibility? (学校はその様な責任を持つと証明する証拠はありますか)

Task 2. 質問の優先順位を考える

反対尋問での質問は、ただ数多くすれば良いというわけではありません。質問時間は限られており、1回の質問のやりとりはテンポが良くて30秒ほどかかります。それで、思いついた質問のうちで、どれを優先して聞くか考える必要があります。

上の質問例をもう一度見て下さい。この8つある質問のうち、2つだけを聞くことが出来るとしたらどれを選びますか。各自で考えて、発表してみて下さい。

Task 3. 反対尋問をする

任意のトピックを選び、誰か1人にスピーチをしてもらって下さい。その後で「証拠は何か」について主に質問する反対尋問をして下さい(反対尋問で使える英語フレーズについては、巻末の表現集を参照して下さい)。慣れない間は、代表の人1人ではなく、複数の人が質問をして良いことにして下さい。





Lesson 9.

リサーチの仕方



Contents:

Section 1. リサーチの種類

Section 2. 日常的に行うリサーチ

Section 3. 調べる前にすること

Section 4. 資料集め

Section 5. 調べた後ですること

SECTION 1. リサーチの種類

このレッスンでは、ディベートで扱われる論題について、知識を得る方法を説明します。ディベートで使える知識を集めるには、以下の3種類があります。

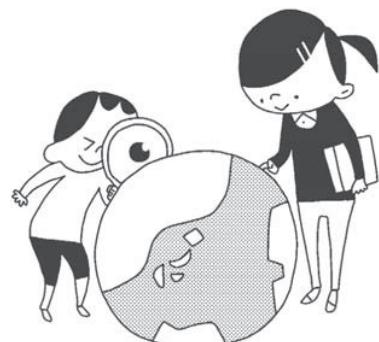
○ ディベートのためのリサーチの種類

- (1) 練習試合をしたり、大会の試合を見学することで知る。
- (2) 新聞・雑誌、テレビ、インターネット、大学の授業などで日常的に知る。
- (3) 興味を持ったトピックを、意識的に調べる。

まず、論題に関する知識を得るために、ある意味最も効率的なのは、誰か経験を積んだディベーターの試合を見ることです。大会などで、難しい論題を与えられた先輩ディベーターがどう戦うか観戦して、上手な説明や、有効な具体例をメモしておきます。

その内容をそのまま、自分が試合をする時に使うのは倫理上問題がありますが、自分なりにさらにアレンジして使ってみて下さい。真似るべきところは真似ることは、まだ初心者と中級者の境界にいるディベーターにとって、大変参考になります。試合のメモを大切に保存しておき、試合で再利用しているディベーターは、上級者でも案外います。ただし、試合で語られた内容を使いまわすだけでは、新しい話題についての論題が与えられた場合に、対応できません。その為に、日頃からリサーチをしておく必要があります。

2つ目には、日常的に時事問題について関心を持ち、情報を蓄えておく方法があります。そして3番目の方法として、特定の論題について文献などを利用して集中的にリサーチを行う事があります。本レッスンでは、まず日常的なリサーチの方法について説明した後に、特定の論題についてのリサーチ方法を説明します。



SECTION 2. 日常的に行うリサーチ

○ 日常的に目にする情報源(1) 新聞

- (1) 日本語の新聞（全国紙であればどれでも良いと思います）
- (2) 英字新聞（高校生の間は Asahi Weekly などの週刊紙で良いと思います。
帰国生の人は Daily Yomiuri を購読し、慣れたら International Herald Tribune に移って下さい）

それではまず、日常的なリサーチで使える資料について、種類ごとに紹介します。とりあえずは、新聞を毎日読んで下さい。日本語の新聞で構いません。社説と、特集記事が特に参考になります。ディベートの論題になりそうな事件や出来事は無いか、探しながら読んで下さい。

○ 日常的に目にする情報源(2) 雑誌

- (1) 日本語の一般向け週刊誌：
「AERA」「日本語版 Newsweek」「クーリエ・ジャポン（隔週刊です）」
- (2) 日本語の経済週刊誌：
「週刊日経ビジネス」「週刊東洋経済」「週刊ダイヤmond」
- (3) 英語の雑誌：
“The Economist” “Foreign Affairs”

これら雑誌は、購読する必要はありません。図書室や図書館で手に取り、面白そうな記事だけ読めば十分です。働く女性が主なターゲットの雑誌ですが、AERA が内容的に穩当なものだと思います。また、サブプライム問題や、中東の政府系金融機関の影響力など経済の話題について知りたい場合は、上で挙げた経済週刊誌の特集記事を探してみて下さい。

帰国生向けに英語の雑誌を紹介すれば、週刊の The Economist 紙と、2カ月に 1 度出る “Foreign Affairs” が、ディベートのトピックに深くかかわる記事を含んでいます。それぞれ英語の表現が難しく、全ての記事を読もうとせずに、興味のある物だけ選んで読んで下さい。

○ 日常的に目にする情報源(3) テレビ番組

(1) 毎日やっている番組

「クローズアップ現代+」：平日 22:00～22:25 NHK 総合

「時論・公論」：平日 23:40～23:50 NHK 総合

(2) 時々やっている番組

「NHK スペシャル」、「ETV 特集」、その他主に NHK の特集番組

これらテレビ番組の内、特に「時論・公論」がディベーターにはお勧めです。毎日 10 分間、最新の話題について、NHK の解説委員が分かりやすく説明してくれます。時論公論の原稿、資料は NHK のウェブサイト上でも公開されています。

○ 日常的に目にする情報源(4) インターネット

- CNN News 10 (<https://edition.cnn.com/cnn10>)

アメリカのCNNが配信していた高校生向けのニュース動画がリニューアルされ、海外の英語学習者を主な視聴者とする番組へと数年前に変わりました。月曜～金曜まで毎日配信され、サイトにはスクリプトも掲載されています。

- NBC Nightly News (<https://www.nbcnews.com/nightly-news>)

アメリカで有数の視聴者数を誇る、平日に毎日放送されている 30 分のニュース番組のネット配信です。

英検で 2 級以上を持っている人であれば、CNN News 10 は半年ほど聞き続ければ内容の半分から 7 割ほど聞き取れるようになると思います（リサーチのためよりも、英語の勉強としてお薦めです）。

以上で紹介した新聞、雑誌、そしてテレビ番組に加えて、高校あるいは大学での授業からもディベートで使える知識を得ることができます。特に「現代社会」は、ディベーターにとって楽しみな授業だと思います。

参考： 各新聞と雑誌の編集方針の違い（2004年頃の話）

よく知られている通り、新聞社や出版社には独自の編集方針があり、各社の社説や特集記事を読む上ではそれを踏まえておけば、より批判的に主張を捉える事が出来ます。例えばアメリカの新聞では、New York Times(International Herald Tribune はこの新聞の国際版です) は民主党寄り、Wall Street Journal が共和党寄りということが広く知られています。

日本のメディアの編集方針の違いを理解する上では、旧来の「左 vs. 右」という対立軸に代わって、冷戦後の現在では「リベラル vs. 保守」という軸が参考になります。以下では、(小泉純一郎さんが首相であった 2004 年当時の) 政党・派閥間の大まかなスタンスと合わせて、各社の編集方針を示しておきます（あくまで大まかな、一般的にも当時認められていた特徴づけです）。もし興味があれば、何か大きな事件があった際に、図書館に行って各新聞の一面記事と社説を読み比べてみて下さい。色々と、面白い発見があると思います。

図 1. 政党・派閥間にあけるスタンスの違い（2004 年当時）

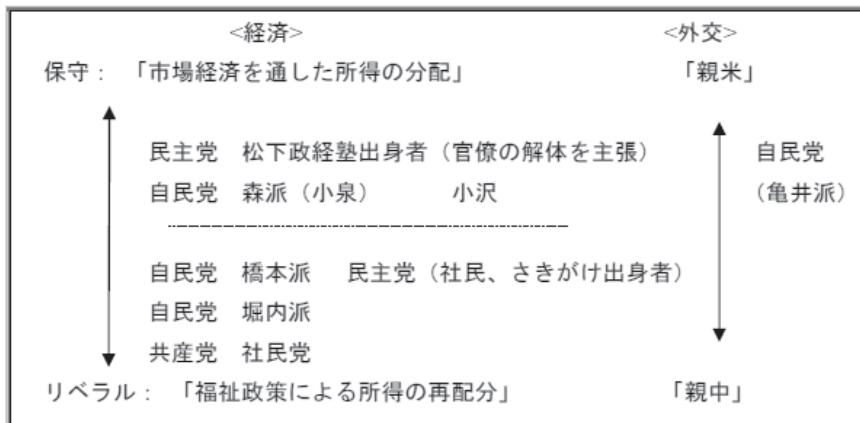
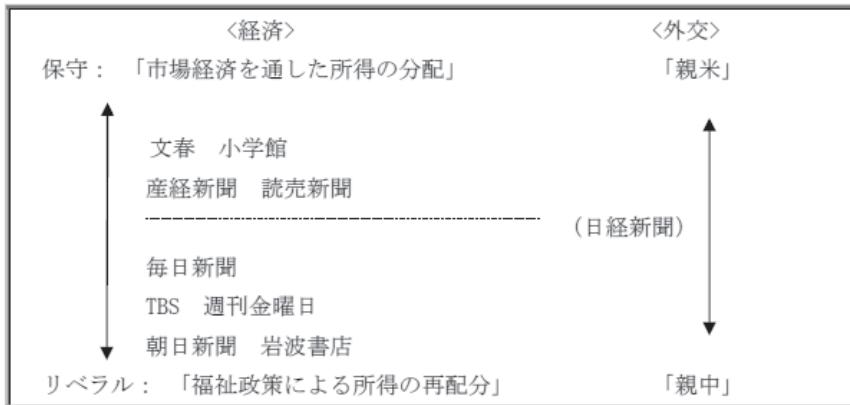


図 2. メディアにあけるスタンスの違い



SECTION 3. 特定の論題を調べる①：調べる前に

それでは次に、特定の論題について興味を持ち、リサーチをする場合の方法について順を追つて説明します。ここでは、次の論題で具体例を示します：

This house believes that Japan should lower the age of adulthood to 18.

「*日本政府は成人年齢を 18 歳に引き下げるべきだ」

(注 2018 年現在、すでに 18 歳に引き下げが決定しています。成人年齢引き下げが実際に決まるまでは、これはよくディベートの大会で使われた論題でした。

1. 自分が既に持っている知識で考える

まずは、何も資料を使わずに、自分が今持っている知識で議論を作った場合、どの様なことが言えるか考えます。成人年齢を引き下げるとは、投票権を得ることに加えて、少年法ではなく刑法が適用される年齢、飲酒・喫煙を合法的に行える年齢、また民法上で大人として結婚や商取引などの契約を結べる年齢などを一括して含みます（この程度は、新聞を読んでいれば目にする情報です）。

たとえば、この論題では以下の議論が出せるのではと思います：

[肯定側]

- ・政治への若者の参加が増す。
- ・若者が望む政策がより実施される。
- ・少年犯罪の厳罰化による犯罪抑止と再犯率の低下
- ・飲酒・喫煙などの楽しみを享受出来るようになる。

[否定側]

- ・若者受けをするだけで政治家の資質に欠ける候補者が選挙で選ばれる。
- ・少年としてではなく成人として罰せられることによる、社会更生の機会の喪失
- ・大人として契約を結ぶことによる害（消費者金融など）
- ・子どもの飲酒・喫煙を助長する。

これらの内で、主に選挙と、少年犯罪が大きな論点として出てきそうだと予想がつき、それらについて特に調べてみる必要がありそうだ分かります。

2. トピックについて概要を知る

次に、リファレンスブックと呼ばれる、百科事典的な資料を用いて基礎知識を得ます。まず図書館に置いてある、またはディベーターが各人持っておくべき紙の資料では以下があります：

○ リファレンス資料① 紙類

(1) ディベーター用の資料集

「日本の論点」(毎年、11月下旬から12月初頭にかけて刊行される)

「Pros & Cons」(帰国生向け ISBN: 0415195489)

「The Debatabase Book」(帰国生向け ISBN: 0972054162)

(2) 一般向け資料

「現代用語の基礎知識」「朝日キーワード」「Imidas Special」など

(3) 高校の「政治経済」や「公民」の資料集

これらのうち、まずディベーター用の資料集から、該当する論題についての解説が無いか探しでみます。毎年、社会で論争になっている事柄について賛成と反対の双方の論者からの寄稿を掲載している「日本の論定」を確認する場合は、過去数年分遡って調べて下さい。最新の巻には載っていないくとも、近年話題になっているトピックであれば、過去数年のうちのいずれかに関連する小論が記載されていることもあります。

英語の資料である「Pros & Cons」と「The Debatabase」では、そのまま主要な論題について肯定側と否定側の双方の意見が記されています。これらの資料集を読むときには、特に各項目末の参考・引用文献一覧を見て下さい。より深く知るためにには、次に何を読めば良いかを知る手がかりになります。ただし、この2つは帰国生向けの資料と思って下さい。

次に、一般の人向けの資料です。網羅的な百科事典として、2006年までは「Imidas」「知恵蔵」「現代用語の基礎知識」の3種類が毎年11月頃に出版されていましたが、現在では「現代用語の基礎知識」だけが刊行されています。よりコンパクトな資料集として、「朝日キーワード」や、時事問題の解説に絞って毎年刊行されるようになった「Imidas Special」などがあります。ネットに散乱している知識を寄せ集めて何かを知ろうとするよりは、まずはこれら、読み手に伝わりやすく簡潔に整理された資料集に目を通す方が効率的でしょう。

最後に、高校の授業でも配られる社会科の資料集です。上に挙げた本を新しく買わなくても、それら資料集で十分役に立ちます。大学生のディベーターの中には、わざわざ新しく購入して使っている人もいます。

○ リファレンス資料② インターネットのサイト

(1) ディベーター用の資料集

「On-line 版 Debatabase」 <http://www.idebate.org/>

(2) 一般向け資料

「Wikipedia (日本語版、英語版)」

次に、インターネットから利用できる資料です。先ほどの Debatabase のインターネット版を覗くと共に、Wikipedia の日本語版と英語版を探してみて下さい。死刑制度や裁判員制度など、ディベートのトピックでは、日本語版と英語版共に内容が充実しています。

【Wikipedia “Voting Age”】

The screenshot shows the Wikipedia article on 'Voting age'. The page title is 'Voting age'. Below it, the text states: 'A voting age is a minimum age established by law that a person must attain in order to be eligible to vote.' It goes on to explain that most countries have a voting age of 18, while some like the United States have a lower age of 18. The sidebar on the left includes links to 'Main page', 'Contents', 'Featured content', 'Current events', and 'Random article'.

【Debatabase “Voting age, Lowering”】

The screenshot shows a debate topic titled 'Voting age, Lowering' from the Debatabase website. The summary states: 'Should the age at which people gain the right to vote be lowered to 16?'. The sidebar on the left lists topics such as 'Intro to Debatabase', 'Debatabase Junior', 'Contributing Topics', 'Commission Topics', 'My Topics', 'Submit Topic', and 'Suggest Topic'. The right side of the screen displays the debate details, including the author 'Alistair Endersby (United Kingdom)', the creation date 'Thursday, February 22, 2007', and the last modified date.

これらを読めば、日本での成人年齢引き下げ論議は、安倍内閣時で成立した「日本国憲法の改正手続きに関する法案」で、18歳以上に投票権を与えると規定されたことで大きく取り上げられるようになったと分かります。公職選挙法なども改正し、18歳以上が国政選挙でも投票できるようになるまでは、憲法改正のための国民投票でも、20歳以上に投票権を与えると附則3条にあります。各国の動向を見れば、ベトナム戦争や学生運動が盛んであった1970年代に、欧米諸国で20歳から18歳に引き下げられ、現在では世界の160カ国以上での成人年齢が18歳になっていると分かります。さらにイギリスでは、投票権の与えられる年齢を、18歳から16歳に下げるか否かという議論が起こっているとも分かります。

以上のリサーチは、図書館にいれば30分～1時間で終わります。これまでの作業で、その論題の背景知識は十分に得られました。普通のリサーチであればこの程度でも十分かもしれません、証拠を集めて試合をする必要があったり、またリサーチの発表会で報告する場合は、もう少し調べる必要があります。

SECTION 4. 特定の論題を調べる②：資料集め

1. 新書本を探す

まずは、日本語の新書を探してみましょう。新書本は、5~6 ドル程度のお金払えば手に入る、世界でも他にほとんど類のない安価で便利な資料です。新書本を検索するには、以下のサイトが役に立ちます：

「新書マップ」 <http://shinshomap.info/>

これは、国立情報学研究所のプロジェクトで 2004 年から運用の始まった、各社の新書本を一括して検索できるサイトです（現在は NPO 法人「連想出版」が事業を引き継いでいます）。こちらで検索した本の中から、興味のある物を公共図書館、学校の図書館で探してみましょう。

【新書マップ検索結果「少年犯罪】

The screenshot shows a Windows Internet Explorer window displaying the 'Shinsho Map' website. The URL in the address bar is http://shinshomap.info/theme/juvenile_crime.html. The main content area shows a search result for the theme '少年犯罪' (Juvenile Crime). On the left, there's a sidebar with a list of books under the heading '8. 少子高齢化社会' (Theme 8: Low-fertility, Aging Society), including titles like '少年犯罪の深層' (The Depths of Juvenile Crime) by 藤原正輔 and '少年犯罪の実名報道' (Real-name Reporting of Juvenile Crime) by 岩田尊司. The right side shows a list of recommended books with titles such as '少年たちはなぜ人を殺すのか' (Why Do Children Kill People?) by キャロル・アン・デイヴィス, '少年犯罪懲罰化 私はこう考える' (Punishment of Juvenile Crime: My Thoughts) by 佐藤幹夫, and '少年事件に取り組む: 家裁調査官の現場から' (Dealing with Juvenile Cases: From the Perspective of a Family Court Investigator) by 藤原正輔. A sidebar on the right lists other themes like '不良少年' (Delinquent Youth), '犯罪と犯行' (Crime and Offense), and '日本の司法' (The Japanese Legal System).

公共図書館、大学図書館であれば Web OPAC (オンライン蔵書目録)で必要な本を所蔵しているかどうか調べられますので、あらかじめ確認してから本棚に行きましょう。また、新書本を購

入する場合、最近出版されたのでなければ普通の書店では見つけるのに苦労します。その場合は「amazon.co.jp」や「bk1」といったオンライン書店か、紀伊国屋書店か丸善といった、各店舗の在庫状況をインターネット上で検索できる書店を利用すると良いでしょう。

成人年齢引き下げのリサーチの続きとして、「少年犯罪」で検索したところ、12 冊出了しました。簡単な内容紹介と出版年などの書誌情報を踏まえ、図書館に行って手に取る数冊を決めます。

2. 新聞記事を探す

次に、新聞記事を探す場合です。日本語の新聞記事は、各社とも過去数ヶ月分は無料でインターネット上から検索出来ますが、それ以降であれば有料のデータベースを利用する必要があります。通う高校や大学の図書館、または公共図書館からその有料データベースを使えれば一番なのですが、何らかの事情でその契約がされていなかったり、自宅のパソコンから過去に遡って調べたい場合には、以下の英字新聞のアーカイブが役立ちます：

- | | |
|---|--|
| { | • Japan Times (1999 年から) :
http://search.japantimes.co.jp/search5.html (1999 年から) |
| • The New York Times (1851 年から) :
http://www.nytimes.com/ref/membercenter/nytarchive.html (1851 年から) | } |

それぞれ無料で全文検索出来ます。資料を翻訳する手間を考えれば、こちらをメインで使っても良いでしょう。

3. 雑誌記事・学術論文を探す（日本語）

次に、雑誌記事を検索する方法を紹介します。日本国内で出版された一般向けの雑誌記事、そして特に大学紀要などの学術雑誌に掲載された論文を探す場合は、以下のデータベースを使います：

国立情報学研究所 CiNii(論文情報ナビゲーター): <http://ci.nii.ac.jp/>

「少年犯罪」で検索した結果、807 件の記事・論文が見つかりました。こちらで見たタイトル、著者、そして掲載された雑誌名を参考に、関連のありそうな論文を図書館で探すことになります。また、いくらかの論文は、CiNii からそのまま PDF ファイルで入手することができます。

インターネット上で一般に公開されていない学術論文に関しては、大学図書館を利用しなければほぼ入手は難しいと思います。大学図書館が利用できない場合は、公共図書館、または高校の司書の方に相談してみて下さい。紹介状を書いてもらえば、利用できます。

【CiNii(サイニー)検索画面】

また、論文のより詳しい検索方法に関しては、各大学図書館のホームページを一読してみて下さい。例えば、国際基督教大学図書館のホームページには、各データベースへのリンク集があります。それらの中には、契約をしていなければ利用できないものもありますが、一般に公開されているものもあります。

【国際基督教大学図書館ウェブサイト】

【亜細亞大学図書館ウェブサイト】

また、図書館を利用した資料の探し方について、亜細亞大学付属図書館のウェブサイト内の、「図書館の達人への道」というページがとても参考になります。統計や雑誌記事など、必要な情報の種類ごとに、その入手方法と利用すると便利なデータベースが紹介されています。

- ICU Library: <http://www-lib.icu.ac.jp/>
- 亜細亞大学付属図書館 : <http://www.asia-u.ac.jp/lib/index.htm>

ただし、こちらのデータベースで論文を探すよりも、どれか1つ関連する論文を見つけ、その論文で引用されている論文、そしてその著者の別の論文をまた読んでいく方法が、検索画面を見つめ続ける探し方よりも効率が良いでしょう。そのためにも「日本の論点」をまず開いてみて下さい。「日本の論点」には、各トピックについて、参考文献が載っています。

4. 雑誌記事・学術論文を探す（英語）

高校生の段階ではまだ必要はないかもしれません、英文の雑誌記事を探す方法を紹介します。英語の文献を探す場合は、大学図書館で各分野のデータベースを検索し、電子ジャーナルとして利用可能であれば PDF ファイルをダウンロードするか、紙媒体で所蔵されていればコピーすることになります。ただし、まだ調べ方に慣れていない場合は、インターネット上で、「Google Scholar」を利用してネットで公開されている論文を 1 つ見つけ、そこで引用された物をまた読み進める方法が現実的かもしれません。

Google Scholar を使って、“Voting Age” そして “Juvenile Crime” で検索した場合、無数に検索結果がありました。それらの内から自分の知りたい情報を含んだ論文を探すのは、経験がいるかもしれません。もし頼める相手がいれば（例えばその分野を勉強している大学生の知り合いか友人、または大学の先生）、いくつかの論文を紹介してもらうのも良いでしょう。

5. 学術書・一般書を探す

ディベートのリサーチの為に、日本語にしろ英語にしろ、学術書を読むことはかかる労力・時間を考えればあまり現実的ではないと思います。本 1 冊を書くには相当の労力が必要で（例えばこのディベートの教科書を作成するのにさえ、数年かかっています）、含まれている情報も古いものになっています。また、研究者は著書よりも、論文を書くことに重きを置きます（大抵の学術書は、発表した論文を再編集して 1 冊の本にしています）。これらの理由から、リサーチの為に学術書を読むことはあまりお勧めできませんが、以下では簡単に探し方を説明します。

基本は、これまでに読んだ論文の中で引用されていた物の中から選んでください。引用もされないような文献では、あまり価値のある情報が含まれていないと思います。また、英語の図書では、Amazon.com を使ってみて下さい。例えば、“Voting Age” で検索すれば、学術書と一緒に、何冊か一般向けの本が見つかります。書評を参考に、読んでみたい本を見つければ、大学図書館で所蔵されていないか探してみて下さい（購入する場合は、同じ本を日本の Amazon.co.jp で探して購入するのが確実です）。大学図書館が利用可能であれば、その大学図書館の OPAC（オンラインで検索できる所蔵図書の目録）で探して下さい。もし所蔵していないければ、国立情報学研究所の、NACSIS Webcat か、Webcat Plus という日本中の大学図書館の蔵書を検索出来るデータベースを利用します(<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)。

大学生以外の方が大学図書館を利用する場合には、所蔵を確認した上で、前述の通り公共図書館から紹介状を書いてもらう方法が確実です。他にも、筑波大学や東京学芸大学などの国立大学、亜細亜大学などの私立大学では、学生以外の一般の方にも閲覧を許しており（図書館によっては「18 歳以上」などの制限がありますが）、ネットで利用条件を確認した上で行ってみるのもよいでしょう（知り合いの卒業生に頼んでしまうのが、一番手っ取り早いのですが）。

SECTION 5. 調べた後ですること

ここまで、資料を調べる方法を紹介しましたが、単に調べるだけでは情報の海に溺れてしまいます。雑誌や論文の山を前にして、途方にくれないためにも、リサーチには明確なゴールを設定しておく必要があります。以下では、そのリサーチを通じて達成すべき目標を説明します。

1 議論の証拠をメモする

ディベートのためのリサーチの基本は、予め大まかに考えた議論の証拠となる情報だけを探して、それぞれある程度数が揃つたらよしとします。もちろん、調べているうちに、新しい議論を思いつくかもしれません。その場合は、始め作った議論の候補をリバイスして、より良いものにして下さい。

2 リサーチした成果を発表する

次に、調べた物を整理して誰かに発表して下さい。発表では、次の 3 点を説明して下さい：

- 1) 論題の背景（基礎的な知識に加え、なぜこの論題が今大切なのか）
- 2) 論題に関する肯定側と否定側の大まかな議論
- 3) リサーチした結果見つかった証拠

関連してお勧めなのは、ディベートを始めたばかりの人に古典的な論題についてリサーチさせることです。各人に 1 つずつ論題を割り振って、週に 1 回程度の頻度で発表会を開きます。先輩は、後輩の集めた知識がどうディベートの試合で活かせるのか、また過去の試合経験から他にどんな観点、議論があり得るのかアドバイスします。誰かに伝えることで、改めて知識を整理し、また単に調べただけでは得られない新しい発見を、発表後のディスカッションから得ることが出来ると思います。

◇まとめの課題

本テキスト巻末の論題一覧表から、古典的な論題を 1 つ選び、リサーチ発表の準備をして下さい。かける時間は、事前のブレインストーミングに 20 分、インターネットだけの調査で 30 分、図書室に行って雑誌・論文記事も利用してもう 30 分、そして 1 時間使って発表の用意をして下さい（簡単な A4 用紙 1、2 枚のハンドアウトを作つて下さい）。リサーチは続けようと思えば、際限がありません。この様に時間を区切つて、発表準備をしてみて下さい。

【参考】 ロールプレイ「日本人はどうして？」

今回は、以前紹介した日本人と外国の人のロールプレイ課題の追加です。1人の人が日本人、もう1人は留学で日本に来た外国の方を演じます。その外国の方は、日本で暮らし始めてみて、不思議なことを幾つか目にしました。それで、これから日本人の友達に質問をしてみます。日本人役の人は、質問に答えて下さい。外国人役の人は、中途半端な説明では納得せず、さらに食いついて下さい。質問は以下から1つ選んで下さい。

Topics

- (1) "Why do Japanese people always ask for my blood type?"
(どうして日本人は、私の血液型を聞くのですか)
- (2) "How can Japanese people stand commuting in a train which is so crowded?" (どうして日本人は、あんなに混んだ電車で通勤・通学するのに耐えられるのですか)
- (3) "Why do Japanese people change the color of their hair into brown?"
(どうして日本人は、髪の毛の色を茶色に変えるのですか)
- (4) "Why do Sumo wrestlers have to be naked to fight?"
(どうしてお相撲さんは、試合をするのに裸でないといけないのですか)
- (5) "Why are there so many vending machines in Japan?"
(どうして日本には、こんなに多くの自動販売機があるのですか)

これら英語を話す練習は、英語の授業外でも、相手をしてくれる人が1人いればいつでもどこでも可能です。授業外でも練習をしてみて下さい（ちょっと恥ずかしいかもしれません）。



Using Evidence

A) 本課のねらい

これまで学んだ内容で、身近な事柄についてディベートをすることは可能です。本課では、リサーチの必要なトピックで試合の出来るように、証拠の使い方を学びます。まずは直接引用の仕方を学び、次にグラフなども用いた間接引用の仕方を導入します。

B) 指導の流れ

Section 1. Direct Quotation (直接引用) 15分程度 + 20分程度

【Step 1 ~ Step3】

- ① 教科書 p.35 [Step1]を開かせ、選択肢を読む時間を与えます。選択肢には、no information（情報無し）という項目があることに気をつけさせて下さい。
- ② p.35のスピーチスクリプトを教員が1回読みます。
- ③ 近くの生徒と解答を比べさせます。教員がもう1度読みます。
- ④ 解答を確認します。
- ⑤ [Step 2]の部分を用いて、直接引用に関するルールを説明します。また、p.34を見せ、証拠カードの書き方も説明します。
- ⑥ [Step3]の先ほど聞いたスピーチの証拠部分を、p.34の証拠カードを参照して訂正させて下さい(リスニング問題の、no information だった情報を補わせます)。

【Step 4 ~ Step6】

- ① これまでに書いた立論を1つ用意させます。
- ② p.36の証拠カードのコピーを1枚配ります。
- ③ 自分の書いたスピーチに合う証拠を、今回は練習として想像して作らせ、証拠カードを作成させます。
- ④ 証拠カードをペアで交換させ、書き方のルールに従っているか確認させます。
- ⑤ 数人の生徒から教員がカードを借り、書画カメラで写し正しくカードが記入されているか確認し、解説します。
- ⑥ 可能であれば、英作文における引用の仕方について簡単に触れてください。

Section 1

[Step 1] (1) c (2) d (3) c (4) c (5) d

[Step 3]

[A] ~ Mr. Goodman, who is a researcher (at Ikebukuro Education Institute), said in ~
 [B] ~ Daily Ikebukuro, (published on) April 1st, 2011, "(quote) based on ~

Section 2. Indirect Quotation (間接引用) 10分程度 + 20分程度

【Step 1】

- ① 教科書p.38 [Step1]を開かせ、まずVocabulary List を口頭練習し、意味を確認させます。右の p.39は見ないように言います。
- ② リスニング課題を説明し、同じページの 4つのグラフに目を通させます。
- ③ p.39のスピーチスクリプトを教員が1回読みます。
- ④ 近くの生徒と解答を比べさせます。
- ⑤ 教員がスクリプトをもう一度読み、解答を確認します。

【Step 2】

- ① [Step 2]の部分を用いて、間接引用に関するルールを説明します。また、p.80を見せ、証拠カードの書き方も説明します。
- ② [Step3]の部分を使い、今回だけ証拠の創造（正確には捏造）を許し、証拠を用意するよう指示をして下さい。。
- ③ p.41の証拠カードに記入させます。
- ④ 証拠カードをペアで交換させ、書き方のルールに従っているか確認させます。

Section 3. Doubting the Evidence (証拠を疑う) 1コマ + 15分

【Step 1】

- ① p37のコピーを配ります。宿題として、p.37の指示に従い、証拠を含む部分的な否定側立論（議論の 3要素のうち 1つだけ）を書くように指示を出します。
- ② 時間の余裕があれば、教員が原稿の添削をし、書き直しをさせます。
- ③ グループ内で発表練習をさせた後に、時間の余裕があればクラスで全員に発表させます。

【Step 2】

- ① p.42の表現を口頭練習させます。
- ② 前半で作成したスピーチ原稿を用意させ、ペアを組ませます。
- ③ 1人が原稿を読みます。ただし、読み上げる人は証拠に関して何らかの情報を意図的に言い忘れます（事前にどの情報を隠すか決めさせます）。その後で、もう 1人がp.83の表現を使って質問をします。
- ④ 同じペアで、役割を変えて同じ事をさせます。
- ⑤ ペアを変え、何度も練習させます。

C) 留意点

■ 日本語で書かれた資料を使い、証拠カードを作る場合

使いたい証拠が英語で書かれていれば、そのまま書き写せる事ができますが、日本語で書かれている場合は英訳する必要があります。英訳をさせる場合、表現が難しくなったり、本当に直接引用で用いてよい精度の訳であるのか問題があります。そのため、直接引用ではなく、「quote / unquote」を使わない要点だけを簡単な英語で述べる、間接引用の形にさせた方が良いでしょう。

■ 評価について

Section 3の Step 1は、証拠の用い方と話し方に関する評価をするための課題です。日程的に余裕がない場合は、直接引用の証拠を用いて発表させて下さい。

教科書では「証拠を探す」と指示がありますが、生徒の負担を踏まえ、今回だけ証拠を創造（捏造）しても良いと指示して構いません。その場合は、実際の試合では決して許されないと強調して下さい。

■ リサーチ方法について

証拠の探し方に関しては、図書館指導と合わせて行って下さい。参考として、グループごとに Book 1の「Lesson 9. リサーチの仕方」のコピーを配布しても良いでしょう。ただ、現在では生徒も主にインターネットを使った情報検索について詳しくなっています。特別な指導をせずとも、おそらくは調べることが出来るのではと思います。大会に出場する上では証拠集めは大切ですが、授業ではリサーチ指導は補足的に行って下さい（例えば、資料を引用したければ、Japan Timesなど英字新聞の記事からのみ持ってくること。資料調べに時間をかけすぎないこと、など指示を出しても良いでしょう）。

【テキスト Part 2.5 について】

今後試合をするために、立論スピーチを書かせます。4 つのトピックについて一度に書かせるではなく、少しずつ取り組ませても構いません。証拠の引用については、あまり調べることに時間をかけすぎないように注意する必要があります。

こちらで扱われている 4 つのトピックはそれぞれ「堅いトピック」であるとも言えます。話しやすい、より日常的な語彙を使わせるトピックを用意しても良いでしょう。

C) 留意点

■ 試合中の証拠の引用について

証拠の使い方を学んでいるので、引用をすることはできます。ただし、スピーチ時間も短いので、必ず何か証拠を用意して引用すること、という指示は出さない方が良いでしょう。

■ 評価について

試合を通して生徒の評価をすることは、現実的ではありません。筆記試験の形で、その場で議論を1つ読ませ、それに対する反論を書かせるなどが良いでしょう。

■ クラス内試合の発展的行事について

特に成績の良かったチームをクラス代表として、クラス対抗戦をする機会を特別活動の時間などで設けると、より英語ディベートに対する学校内の認識と、他学年の生徒の動機付けが高まると思います。スピーチ発表といった個人としての作業だけでなく、チームとして鍛えた英語力を表彰される機会をぜひ設けてください。

【これ以降の指導について】

- ・課外活動として英語ディベートを続けたい生徒には、高校生向けの大会がいくつか開催されていることを教えてあげてください。調査型も即興型も、それぞれこの10年間で高校生向け大会が定期的に開催されるようになりました。
- ・英作文の授業、またリーディングの授業で、ぜひ英語ディベートを通して学んだスキルをさらに伸ばしてください。生徒にも、英語ディベートの授業で学んだスキルは、様々な場面で応用することができると繰り返し説明をすると良いでしょう。

【巻末資料について】

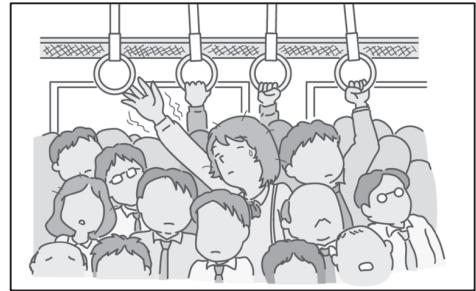
- ・巻末資料の1つ「授業で使える Short Debate」とほぼ同じ形式が使われている練習大会も、各地で開催されています。ぜひこちらを部活動などでお使い下さい。
- ・巻末資料には、日本語ディベート用のハンドアウトが含まれています。英語の授業ないだけで終えずに、ぜひ他の教科でもディベートを取り入れてみてください。
- ・2種類の英作文日記帳を資料に加えました。授業に平行して、ただの日記以上に生徒に楽しく書かせる活動もぜひさせてください。また、生徒が書いたものは、生徒同士で読ませ、付属の「交換日記表」を記入させると良いでしょう。

■ Lesson 6. 証拠を用いる (Using Evidence)

[Sec. 1] 直接引用 (Direct Quotation)

■ Step 1 聞いて答えよう

Your teacher will make an argumentative speech with evidence. Listen and answer the questions below. You will listen only once. 先生が証拠付きの立論を読みますので、聞いて正しい答えを選びなさい。



(1) Who is Mr. Goodman?

- a. a doctor b. a university professor c. a researcher d. no information

(2) When did Mr. Goodman make the comment?

- a. in 2001 b. in 2006 c. in 2010 d. no information

(3) Where was the second evidence taken from?

- a. from a magazine b. from a website c. from a newspaper d. no information

(4) When was the second evidence published?

- a. in 2003 b. in 2005 c. in 2008 d. no information

■ Step 2 直接引用の用い方

When you quote someone's words, you need to follow the rules summarized below. 誰かの言葉を引用する場合、以下の決まりに従って下さい

(1) 出典の示し方 How to show the source of information

A) [専門家の意見の引用]

If it is an expert's opinion, you need to tell:

- | |
|--|
| ① His or her name (その人の名前) |
| ② His or her position (肩書き) (e.g. university professor など) |
| ③ The year the statement was publicized (その発言の公表年) |

e.g. Mr. Brown, who is a researcher at Peanuts Research, said in 2011, “～.”

「ピーナッツ研究所のブラウンさんは、2011年にこう述べています。～」

B) [新聞・雑誌記事の引用]

If it is an article from a newspaper or a magazine, you need to tell:

- | |
|--|
| ① the name of the magazine or newspaper (雑誌や新聞の名前) |
| ② the date of publication (出版日) |

e.g. According to New York Times, January 21st, 2011, “～.”

「2011年1月21日の1ニューヨークタイムズによると、『～』」

(2) 直接引用の決まり Rules on direct quotation

- Copy the words from the source. (資料の必要な部分を、一語一句コピーして下さい)
- When you use direct quotations in your speech, say “quote” at the beginning and say “unquote” at the end of the quotation. (コピーした文を読み始める際には、"Quote"と宣言し、読み終えた際には"Unquote"と言ってください)



■ Step 3 引用を直す

Fix the following quotations you have heard by taking necessary information from the evidence cards in the next page. 次ページの evidence card を参照しながら以下のスピーチの引用部分に不足している情報を補いなさい。

【Quotation A】

Let me quote what Mr. Goodman said in 2010: "(quote) people who are forced to keep standing in crowded trains are both mentally and physically exhausted, which will affect their performance. In short, they cannot make the most of their ability. (unquote)"

【Quotation B】

According to Daily Ikebukuro, "(quote) based on the studies available so far, we can conclude that morning persons are more likely to be attentive to lessons in the morning than night persons.(unquote)"

■ Step 4 スピーチに証拠を入れる

What has been lacking in your constructive speeches so far is evidence. You are going to learn to put evidence into your speech in the rest of this section. これまでの立論には証拠が欠けていました。これから証拠の入れ方を学びます。

Your task here is to make (or imagine) one piece of evidence that will fit into your speech. Based on that information, prepare one evidence card. You should refer to the instructions on how to write an evidence card in the next page. When you have finished writing the evidence card, underline where you put your evidence in your speech and write (E) at the end of that part.

自分のスピーチ(否定側立論です)に当てはまる証拠を1つ考え、次の指示に従ってエビデンスカードを完成させなさい。また、立論スピーチの原稿のどの場所に組み入れるか、その箇所に下線を引き、最後に (E) を書きなさい。

[Evidence card]

Card Number (1)	<p>1) そのカードの通し番号を書きます。</p> <p>Claim (主張) <i>People in crowded train</i></p> <p>2) 後でカードを見返した時に内容がすぐ分かる様に、この証拠を整理するまでの要旨・ラベルをつけます。</p>
Author	<p>1) [論文または署名入りの記事、書籍からの場合] <i>Let me quote what</i> <i>Mr. GOODMAN, who is a researcher at Ikebukuro Health Center,</i></p> <p>3) 筆者の名前を入れます。</p> <p>4) 筆者の肩書きを入れます。</p>
	<p>5) 発言が出た年を書きます</p> <p>2) [署名のない雑誌・新聞記事などからの場合] <i>According to (published on) () (), (), ()</i></p> <p>*3) 新聞・雑誌などの名前を入れます。</p> <p>*5) その出版日(雑誌の場合は月と年)</p> <p>*5) 新聞記事の場合は published on という表現を省略して構いません。</p>
Quotation (引用)	<p>(omitted for space availability スペースの都合上省略します)</p> <p>6) 資料から証拠として用いたい箇所をここに書き写します。</p>
Source (出典)	<p>7) ここに、より細かい出典を書きます。本であれば、「①本のタイトル、②出版社、③出版年度、④引用した箇所のページ番号」を書き込みます。 署名のない雑誌・新聞の記事であれば、「①雑誌・新聞名、②出版年度または出版の日付、③引用した記事のあるページ番号」を記します。</p> <p><i>Goodman, Benny. / researcher at Ikebukuro Health Center/ Issues in Health Reform in Tokyo / 2010 / Ikebukuro News Press / p. 34</i></p>

[Evidence card]

Card Number (2)

Claim (主張)	<i>If we come to school earlier. we can concentrate more on our study</i>
Author	<p>2) [署名のない雑誌・新聞記事などからの場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> • According to <i>Daily Ikebukuro</i> <p>(published on) (April) (1st), (2013),</p>
Quotation (引用)	(omitted for space availability スペースの都合上省略します)
Source (出典)	<i>Daily Ikebukuro April 1st, 2011 / p. 3 / editorial</i>

【Lesson 6. Sec 1】 (page 9 のものと比べてみましょう)

Speech Script	
Hello everyone. Today, I want to argue that the first period of our school should start at 7:30.	
I have one reason.	
It is "comfortable school life". Let me explain.	
Problem	<p>We have a problem. As you know, when we come to school, most of us have to keep standing in crowded trains with a heavy bag in our hand and <u>we get very tired.</u> (E)</p> <p>Let me quote what Mr. Goodman, <u>who is a researcher at Ikebukuro Health Center,</u> <u>said in 2010:</u> "(quote) people who are forced to keep standing in crowded trains are both mentally and physically exhausted, which will affect their daily performance. In short, they cannot make the most of their ability. (unquote)"</p>
Solution	<p>Then, if we introduce this plan, we can solve this problem as follows.</p> <p>If the first period starts at 7:30, most of us will leave home around 6. Trains are not crowded around that time and we may be able to take a seat all the way to school. We can breathe cleaner air and be relaxed on the train.</p>
Importance	<p>This point is important because <u>if we come to school earlier, we can study in good condition and we can concentrate more on our studies.</u> (E) <u>I will give you one piece of evidence.</u> According to <u>Daily Ikebukuro,</u> <u>published on April 1st, 2013,</u> "(quote) based on the studies available so far, we can conclude that morning persons are more likely to be attentive to lessons in the morning than night persons.(unquote)"</p>
For this reason, we should take this plan. Thank you.	

Part 2

■ Step 5 証拠つき部分的スピーチの準備

Check your partner's evidence card and see if the requirements are all met. Copy part of your speech and evidence in the forms on page 37. パートナーとエビデンスカードを交換して、パートナーのカードが求められている情報を全て過不足無く含んでいるかどうか確認して下さい。そのち p37 に、証拠をつけた部分のスピーチおよび証拠を書き写し、上の例に基づいて読む練習をしましょう。

(記入例が p.43 にあります)

Evidence card (直接引用)

Card Number ()	
Claim (主張)	
Author (著者)	<p>1) [論文または署名入りの記事、書籍からの場合]</p> <p>• Let me quote what, who is....., said in ().</p> <p>2) [署名のない雑誌・新聞記事などからの場合]</p> <p>• According to, (published on), () (), (),</p>
Quotation (引用)	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>読み上げる際には、引用の初めには Quote(引用開始)、終わりには Unquote(引用終了)と加えて下さい。</p>
Source (出典)	
Check List <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 原文が英語であれば、間違いなく書き写した。原文が日本語であれば、元の意味を曲げることなく英語に訳した。 <input type="checkbox"/> 著者の真意をねじ曲げることなく、適切な箇所を最低限の長さで引用した。 <input type="checkbox"/> 第3者が改めてその情報源にたどり着き確認できるよう、必要な出典をメモした。 	

Class: _____ Student No.: _____ Name: _____

Due date: /

HW③ Neg Const. (partial speech with evidence)

Part 2

Speech Script

Hello everyone. Today, I strongly disagree that

The disadvantage is “ ”.

I will only explain its [present situation / causal link / seriousness].

That's all. Thank you.

*上のスピーチ原稿内で、下の証拠を挿入する箇所に(E)の記号を記すこと。

【Evidence Card】

Claim (主張)	*ここは証拠の整理用のラベルを入れる箇所です。ここ部分の内容は読み上げません。
Author (著者)	
Quotation (引用)	----- ----- -----
Source (出典)	

読むのにかかった時間： [] seconds (45秒前後で終わるように調整すること)

Class: _____ Student No.: _____ Name: _____

[Sec. 2] 間接引用とグラフ (Indirect Quotation & Graph)

■ Step 1 聞いて答えよう

Your teacher will make another argumentative speech with evidence on the same plan. This time the speech is from the negative side. Listen to the speech and answer the questions below. これから、前と同じプランについての否定側立論を聞きます。以下の質問に答えてください。

Plan (政策): The first period of our high school should start at 7:30.

Vocabulary List

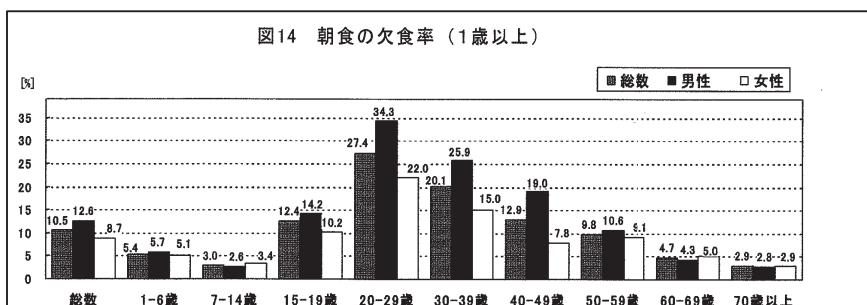
pie graph: 円グラフ bar graph : 棒グラフ

- 1) Put the following data in order as referred to in the speech.

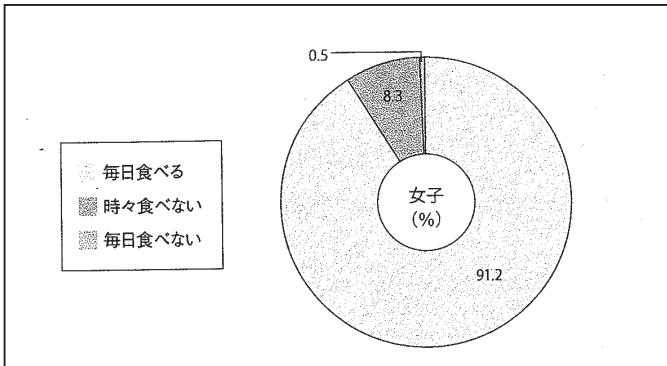
Answer: () ⇒ () ⇒ ()



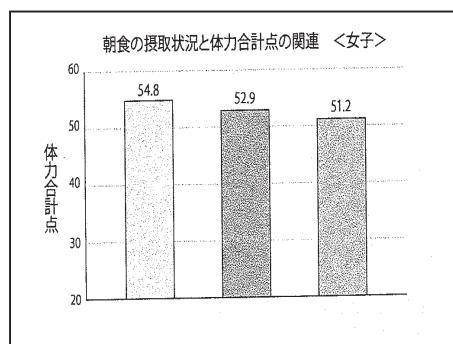
Data A



Data B



Data C



- 2) What is the signpost for the disadvantage?

It is “() () () ()”.

- 3) If we introduce the plan, what problem will we have?

We will () () ().

【Lesson 6 Sec 2】 Negative Constructive

Speech Script	
Hello everyone. Today, I strongly disagree that the first period of our school should start at 7:30.	
I have one disadvantage.	
The disadvantage is “unhealthier life style”. Let me explain.	
Present Situation	At present, as school starts at 8:30, most of us have enough time to have a good sleep and eat a healthy breakfast. (E) Please take a look at this pie graph. According to <i>The Survey on The Eating Habit and Physical Strength</i> , published in 2009, more than 90% of the students at our school eat breakfast every day. This is very important for our health. (E) According to this article, the majority of Japanese doctors believe that breakfast is the most important meal of the day and is essential for a healthy life. In fact, most of us eat breakfast every day and are leading a healthy life. We have no problem on this point.
Causal Link	However, if we introduce the affirmative plan, we will have a problem. If we have to wake up earlier, many students will skip breakfast to sleep a little longer. (E) Please take a look at this bar graph. According to <i>Healthy Japan 21</i> , published by *MIC in 2010, we can see that people between 20 and 50 tend to skip breakfast, which tells us that busy people are likely to skip breakfast in order to have enough sleep. If we skip breakfast, we will lose our physical strength. (E) Please look at this bar graph below. According to the same survey, the average physical strength of the students who do not eat breakfast every day is clearly lower than those of the other two groups.
Seriousness	This is a serious problem. If students have an unhealthier life, they will become physically weak, and in the future they will have many health problems. High school students represent the future of Japan. They should grow up in good circumstances.
So their plan will do us more harm than good. We strongly believe that we should not start the first period at 7:30. Thank you.	

note: M I C 総務省

■ Step 2 グラフに関する表現

全般に関する表現

表: table 線: line 曲線: a curved line グラフ: graph

⇒ 棒グラフ: a bar graph 円グラフ: a pie graph 折れ線グラフ: a line graph

数値: number 量: amount 割合・率: percent

上のグラフ・下のグラフ: the graph [above / below]

右のグラフ・左のグラフ: the graph on the [right / left]

ご覧の通り、～。: As you can see, ~ .

このグラフは、～を示しています。: This graph shows that ~ .

グラフの描写 (数値の増減)

$\left\{ \begin{array}{l} \text{The number of } \sim \text{ «可算名詞»} \\ \text{The amount of } \sim \text{ «不可算名詞»} \end{array} \right\}$

$\left\{ \begin{array}{l} \text{is [increasing / decreasing].} \\ \text{has [increased / decreased] by } \sim . \end{array} \right\}$ «増加・減少し続けている»
«～だけ増加・減少した»

[増減の程度を示す副詞]

slightly: わずかに slowly: ゆっくり gradually: だんだんと

⇒ considerably: かなり sharply: 急激に rapidly: 急速に

[増減を表す他の動詞]

rise ⇌ fall, drop go up ⇌ go down

remain almost the same: 同じままだ

～ was at its [highest / lowest] in … . : ～は…で最も高かった(低かった)

[変化の時間的推移を示す表現]

start to ~ : ～し始める continue to ~ : ～し続ける

from ~ to … : ～から…まで until ~ : ～まで (継続して)

over the last ~ years: 過去～年にわたって

グラフの描写 (割合)

- ～ account for X percent of the … : ～は…のXパーセントを占める
- ～ represent X percent of the … : ～は…のXパーセントを占める
- 分数の表し方: 分子は基数 (one, two, three, ...) 分母は序数 (first, second, third...,)
⇒ 分子が2以上の数字の場合は分母が複数になります。
e.g. 2/3 = two thirds 1/5 = one fifth

Evidence card [Type B: Indirect Quotation & Describing Graphs]

Card Number ()	
Claim (主張)	
Author (著者)	<p><i>Please take a look at this.</i> (.....).</p> <p>(↑グラフを用いない間接引用の場合はこの表現は省略。空所にはグラフの種類を入れます)</p> <p>1) [論文または署名入りの記事、書籍からの場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> • According to [a book / an article] written by , who is , in (), <p>2) [署名のない雑誌・新聞記事などからの場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> • According to , (published on), ()(), (),
Quotation (引用)	
Source (出典)	

Check List

- 間接引用であれば、原文の意味を曲げることなく適切な箇所を要約した。
- グラフの説明において、適切な表現を用いた。
- 第3者が改めてその情報源にたどり着き確認できるよう、必要な出典をメモした。

Class: _____ Student No.: _____ Name: _____

〔Sec. 3〕 証拠の信用性を問いただす (Doubting the credibility of evidence)

Just using a piece of evidence does not guarantee that the claim supported by the evidence is true. You need to evaluate how the information presented by the opponent is trustworthy by asking questions. The last section of this lesson is devoted to the practice of this type of questioning. 何らかの証拠を使ったからと言って、必ずしもそれで主張が証明されたとは限りません。このセクションでは、相手チームから提示された証拠の信用性を問いただす質問を練習します。



■ Step 1 証拠のある否定側立論の準備

Take out the negative constructive speech you wrote on page 24. Explain only one of the three elements of a disadvantage, or “present situation”, “causal link”, and “seriousness”. Make out a piece of evidence that supports your disadvantage either in a persuasive or in a funny way. Make sure to finish the entire speech in 45 seconds. 25 ページに書いた否定側立論の原稿を用い、その 3 つの構成要素のうちどれか 1 つだけを抜き出して、その証拠を 1 つ作ってください。今回は架空のものでかまいません。説得力がありそうな面白いものを考えて、全体を 45 秒で終わるようにしてください。また、スピーチ中で証拠を入れる箇所に、E というマークを入れて下さい。用紙は、p.37 のものをまた使います。

■ Step 2 証拠についての質問

Make a group of four. One person delivers his or her prepared speech. Then, other three students ask questions on the evidence. Practice the useful expression shown below. When finished, another member will make a speech and others ask questions on evidence again. Continue until everyone has made their speech. 4 人組を作って下さい。1 人が Step 1 で用意したスピーチを発表し、残りの人はそのスピーチで使われた証拠に対して質問をします。下にある表現集を使い、全員が 1 度スピーチを読み上げる役割を終えたら終了です。

Expressions to ask questions on evidence(証拠に対する質問の表現集)

【A. 証拠の有無を確かめる】

- You said _____, but do you have evidence?

【B. 引用された人物の信頼性を確かめる】

<発言を引用された人物が何者か、説明されなかった場合>

- You quoted the words of _____, but who is [he / she] ?

<発言を引用された人物が、本当にその分野で権威があるのか疑わしい場合>

- You quoted the words of _____, but is [he / she] truly an expert of that field?

【C. 証拠がいつ出版・公表されたか確かめる】

<引用された証拠がいつに出版・公表されたものが明かされなかった場合>

- You quoted [the evidence from _____ / the words of _____], but when was it published? [↑引用された雑誌・新聞名、または著者名を入れます]

HW③ Neg Const. (partial speech with evidence)	Due date: /	HW③ Neg Const. (partial speech with evidence)	Due date: /
<p>Speech Script</p> <p>Hello everyone. Today, I strongly disagree that <u>Donald Trump should be the president of the U.S.</u></p>		<p>Speech Script</p> <p>Hello everyone. Today, I strongly disagree that <u>Donald Trump should be the president of the U.S.</u></p>	
<p>The disadvantage is "Starting WWIII". I will only explain its [<u>present situation</u> / causal link / seriousness].</p>		<p>The disadvantage is "Starting WWIII". I will only explain its [<u>present situation</u> / causal link / seriousness].</p>	
<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p>		<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p>	
<p><u>Mr. Trump doesn't like most foreign leaders.</u> He will fight with them and cause them to attack. This will surely start WWIII.</p>		<p><u>Mr. Trump doesn't like most foreign leaders.</u> He will fight with them and cause them to attack. This will surely start WWIII.</p>	
<p>That's all. Thank you.</p>		<p>That's all. Thank you.</p>	
<p>* 上のスピーチ原稿内で、下の証拠を挿入する箇所に ⑮ の記号を記すこと。</p>			

[Evidence Card]

Claim (主張)	Mr. Trump hates Everyone!	X
	* これは証拠用のテンプレートをそのまま貼り付けています。二つの部分の内容は読み上げません。	
Author (著者)	According to The New York Times, published on April 1st, 2016,	A
Quotation (引用)	(Quote) Many world leaders were surveyed	G
	and most responded that they hate Mr. Trump.	G
	In fact, Prime Minister Abe of Japan said that Donald Trump called him Mr. Potato Head. (unquote)	G
Source (出典)	The New York Times / April 1st, 2016 / p. 4E / Politics	X

読み込みにかかった時間：[.....] seconds (45秒前後で終わるように調整すること。)

Part 2

HW③ Neg Const. (partial speech with evidence)	Due date: /	HW③ Neg Const. (partial speech with evidence)	Due date: /
<p>Speech Script</p> <p>Under the current situation, our society is mostly peaceful. There are no major world wars between powerful countries. ⑮</p>		<p>Speech Script</p> <p>Under the current situation, our society is mostly peaceful. There are no major world wars between powerful countries. ⑮</p>	
<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p>		<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p> <p>⑦</p>	
<p>That's all. Thank you.</p>		<p>That's all. Thank you.</p>	
<p>* 上のスピーチ原稿内で、下の証拠を挿入する箇所に ⑮ の記号を記すこと。</p>			

[Evidence Card]

Claim (主張)	There are no major wars.	X
	* ここは証拠用のテンプレートをそのまま貼り付けています。二つの部分の内容は読み上げません。	
Author (著者)	Let me quote what Mr. Nobel, a politics professor at Harvard, said in 2016,	B
Quotation (引用)	(Quote) Now, there are no wars between politically powerful countries. The major powers have built good relationships since the end of WW II. (unquote)	G
Source (出典)	Nobel, Pewsey. / Professor at Harvard / Politics Today / 2016 / University Press / p. 192	X

読み込みにかかった時間：[.....] seconds (45秒前後で終わるように調整すること。)